



歴史的なモンテズマ・キャッスルを見上げるUWC-USAのキャンパス

のために他方を犠牲にするという、「ゼロサムではないんだね」と、確認した。資源を必要以上に利用しなくても成長は可能であるという、ノン・ゼロサムの考え方に基つけば、環境に優しい成長も可能であると考えることができる。私は、急に目の前が明るくなった気がした。

その経験はどんな時も、まず人と話をして理解する努力をすることの大切さを教えてくれた。そうすれば、意外な発見や驚きがあるからだ。

世銀ではアフリカ開発の分野で仕事をしているが、UWCで学んだこのレッスンは役立っていると思う。開発効果の大きなプロジェクトを成功させるには、各国のパートナーとの入念な

交渉を要する。こちらの意図を通す前に、まず相手のニーズを理解することが、プロジェクト成功の前提条件だと思う。

重要な「ノン・ゼロサム」の考え方

学生時代に信じて疑わなかった概念が、その後社会に出て体験を重ねるうちに覆るということが私にはよくある。しかし二十一世紀の今、グローバル化が進み、世界各国が経済活動を相互依存する中で、ノン・ゼロサムという考え方がますます必要になってきていると思う。

日本を含めた先進国は、グローバル化の恩恵を多大に受けている。しかし一方で、発展途上国の中には、グローバル化こそ貧富の地域差拡大の要因であり、必ずしも歓迎されるべきでないという考え方もある。今も、地球の人口の半数以上が一日二ドル(二四〇円)以下の収入で暮らしている。グローバル化のもたらす成果が、片方が得をし、他方が損をするゼロサム・ゲームであってはならない。平和の継続のために、先進国と途上国が同時に発展できるように努力したい。

●(社)ユニテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会は、世界各国から派遣されてくる生徒たちとの教育体験の共有により、国際感覚豊かな人材を養成するという理念を掲げるUWCの日本委員会として、毎年一〇名以上の高校二年生を世界各地にあるUWC傘下の高校に派遣し、すでに三六〇名以上の卒業生を輩出させている。

正論

なぜ石原慎太郎首相は待望されるのか

八木秀次

10

中国が「反日」を強める本当の理由 黄文雄

早く沈んで田中眞紀子に浮かぶ瀬あり 松野頼三

リーダーよ、父たちのごとく務めを果たせ 山本五十六・山口多聞子息対談

どうして日本は敗戦から立ち直れないのか

西尾幹二／小堀桂一郎／中西輝政／遠藤浩一／牛村圭

川口大臣、あなたのここが間違っている 村田良平

●電話で/0120-34-4646

●FAXで/03-3241-4281

産経新聞社へ

お問い合わせは

「つくる会」白熱シンポ

定価680円(税込み)

ノン・ゼロサムという考え方

世界銀行グループ本部ワシントン勤務 **平本浩一**

ひらもと こういち

UWCアメリカカン・ウエストカレッジ(アメリカ、一九八三〜八五年)、
八八年ロンドンスクール・オブ・エコノミクス卒業。九〇年オックスフォード大学大学院卒業。九八年九月より現職



また私は当時、経済学の授業内容について悩んでいた。教科書の序章には、「経済学とは、限られた資源を効率的に分配する方法を探索する学問である」と、美しく定義されている。それなのに授業では、「成長率」の用語に代表されるように、富を最大限にする理論に時間を費やし、「限られた資源」に注目した環境対策等を学ぶ機会が全くなかったからだ。無防備な地球は、人間の果てしない欲望によってそのうち崩壊するのでは、と単純な私は、食堂でペーパー・ナプキンやプラスチックの食器を捨てるたびに心を痛めていた。

人と話すことの大切さ

ある時、始業前のオリエンテーションで知り合ったインドの学生が友人を連れて、私の部屋を訪ねて来た。もっと外に出て、他の学生と交わったらどうかと言った。なんと大きなお世話だと思ったが、結局、最初の友達になってくれた。もう一人のスペインからの学生は、黒澤明監督の映画が好きだと自己紹介した。

その晩、彼らと三人で経済の定義について議論した後、「資源は限られていても、生産は限定される必要はない」という結論に達した。人間の技術、想像力にも限りがないから、ということだった。当時ベストセラーになった本で、レスター・サローの「ゼロ・サム社会」を読んでいた私たちは、資源と生産との関係は、片方

私は、一九八三年から二年間アメリカ、ニューメキシコ州にあるUWCのアメリカン・ウエスト・カレッジに留学させていただいた。UWCは全寮制のカレッジで、世界各国から生徒が集まる。卒業前にインターナショナル・バカロレア(IB)を取得し、その後大学に進学するというプログラムだ。IBの一科目として選択した経済学に興味を持ち、大学の学士、大学院修士課程と経済を専攻した。それから東京の外資系投資銀行で勤務した後、九八年に世界銀行に入行した。開発に携わることは、経済学の基礎を学んだUWCの時から希望だった。

悩み多き留学当初

UWCアメリカン・ウエストは、アルバカー

キ空港から車で三〜四時間ほど北東に行った所にある。当時一八歳だった私は、到着していきなり、「とんでもない所へ来てしまった」と思った。見渡す限りに黄土の広がる、まさにワイルド・ウエストの中心にキャンパスがあったのだ。「次の送迎バスに乗って引き返そう」とも考えたが、奨学金をいただいた、経団連、笹川財団の方々に申し訳ないと思い直し、あきらめた。UWCは、国際理解という目的を掲げている。生徒は文化や慣習の違いを超えて、他の生徒と共同生活を営む。ところが、留学して間もなく、自分の部屋に閉じこもり、予習、復習を必死でやっていた。英会話がままならず、授業に遅れるのが恐かったからだ。